

| | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|-----------------|-------------|---|-----------------------|---------|-------|----------|------|------------------|--------|
| 科目名 | 小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing | | 担当教員 (研究室番号) | 宮崎つた子 (207) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | |
| 履修年次 | 2年次前期 | 科目区分 | 専門科目・生涯看護学 | | 選択区分 | 必修 | 単位数(時間) | 1(15) | 授業形態 | 講義 | 科目等履修生 オプショナル | 否 否 |
| 科目目的 | 1. 小児看護の対象である子どもと家族の特徴ならびに子どもを取り巻く社会・医療・家族・環境状況について学び、小児看護の役割について理解する。 2. 小児の成長発達と健全な成長・発達を支援するための日常生活援助方法について理解する。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 主要なDP | B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 小児看護の対象、目的、役割を記述することができる。 2. 小児に関する法律や政策の概要について記述することができる。 3. 子どもの権利について記述することができる。 4. 小児各期の成長・発達の特徴を記述することができる。 5. 小児各期に応じた日常生活の援助方法について記述することができる。 6. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について記述することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | 試験(100%) | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と基準等 | 有: 不合格となった者全員を有資格者とする。 再試験は筆記試験とする。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座 小児臨床看護各論(医学書院) | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 講義の中で必要時紹介する。 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | 子どもや家族の特徴をしっかり理解して下さい。今後学ぶ小児看護方法Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習の基礎となる科目です。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 小児看護方法Ⅰの先修条件となっている。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | | 学習内容 | | | | 主担当教員 | 授業方法 | | |
| 1回 | 小児看護の対象と目的 小児看護の歴史の変遷 | | | | 小児看護の対象、目的、役割について学ぶ。 小児看護における家族の位置づけ、家族看護について学ぶ。 小児医療と小児看護の歴史の変遷および現状と課題について学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 2回 | 小児に関する法律と保健活動 | | | | 子どもの健全な成長・発達や生活を支援する医療・福祉・教育に関する法律・政策の概要と具体的な取り組みについて学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 3回 | 子どもの権利と小児看護 | | | | 子どもの権利条約、インフォームドコンセント(アセント)、病院の子ども憲章などについて理解し、小児看護における子どもの権利を具体的に考える。 子どもの虐待の現状を理解し、その予防について考える。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 4回 | 子どもの身体的成長の特徴と看護 子どもの機能的発達の特徴と看護 | | | | 子どもの身体的成長の特徴と健康問題について学ぶ。 子どもの成長・発達の原則、影響(環境的)要因について学ぶ。 子どもの機能的発達の特徴と健康問題について学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 5回 | 乳児期と幼児期の子どもの発達と援助 子どもの基本的生活習慣と援助 | | | | 乳児期・幼児期の成長発達の特徴について学ぶ。 健康診査や健康問題に対する援助について学ぶ。 子どもの基本的日常生活行動(食事、睡眠、清潔、排泄、衣服の着脱)や社会的な生活習慣の援助と遊びの意義について学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 6回 | 学童期と思春期の子どもの発達と援助 健康障害をもつ子どもと家族への援助① | | | | 学童期と思春期の成長発達の特徴について学ぶ。 学童期と思春期によくみられる健康問題と援助について学ぶ。 | | | | 宮崎/学外協力者 | 講義 | | |
| 7回 | 小児看護における理論 子どもの発達の評価 子どものセルフケアの発達と援助 | | | | 子どもの発達と理論について学ぶ。 子どもの成長・発達を評価する具体的な方法を学ぶ。 子どもの病気の理解と援助について学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 8回 | 健康障害をもつ子どもと家族への援助② | | | | 健康障害をもつ子どもと家族(入院・在宅・災害・教育など)の援助について学ぶ。 | | | | 宮崎 | 講義 | | |
| 学 習 課 題 | | | | | | | | | | | | |
| 事前課題(第2回～第8回): 各回の学習内容に関する教科書や参考図書等を通読する。 | | | | | | | | | | | | |
| 事後課題(第1回～第7回): 各回で指定された課題を自己学習する(課題は各回の授業時間内で説明する。) | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験を活かした教育の取組 | | | | | | | | | | | | |
| ・担当教員は看護職として小児看護等の臨床経験を有する。担当教員は看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義を行う。 | | | | | | | | | | | | |